

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

地域資源（森林・温泉・食農）を活かした健康増進型の観光による地域再生

2 地域再生計画の作成主体の名称

飯山市

3 地域再生計画の区域

飯山市の全域

4 地域再生計画の目標

飯山市は、日本のふるさとの原風景を今に残す農村地帯である。癒し効果を醸し出すその風景は、平成14年に公開された、故黒沢明監督の一番弟子とされる「小泉堯史監督」の映画『阿弥陀堂だより』のロケ地にも選ばれ、都会で心患った主人公が、美しい風景の中で、健康を取り戻すというストーリーにふんだんに使われることになった。地域の宝物は、映画シーンそのものであることを強く再認識した飯山市民は、地域資源である美しい自然や農村景観を活かした地域づくりに本格的に着手し始めた。

しかしながら農村風景は、全国至る所に点在することから、全国に通用する「個性の創出」を追求した結果、美しい自然や農村風景の上に立脚した上での、健康増進型の新しい観光で、地域再生を目指すことを確認したところである。

目指す分野は、近年着目されつつあるヘルスツーリズムの領域で、訪れるお客様には、『健康への旅』であることを意識いただき、これまでの仕事優先の生活から健康を意識したライフスタイルに自ら変えていただく、提案型の健康体験メニューと健康情報をセットした「付加価値」の提供である。都市側住民には健康ライフを提案し、受け入れ側の農村側住民は、受け入

れ環境を整えることで、経済活動を基盤とした持続可能な地域社会づくりを目指そうとするものである。

そうした背景を踏まえ、新しい地域産業の目標（将来ビジョン・あるべき姿）の具体策を次のように定め、市をあげて取り組んでいる。

それは、美しい自然や農村風景に溶け込み、従来から飯山市に備わる「健康増進に有効な地域素材」としての「森林」、「温泉」そして「食農」の3つの素材の活用である。それらを活用し、キーワードとなる『健康』という価値を、科学的・医学的実証に基づいた健康メニューで提案しようという取り組みである。すなわち「森林での運動療法」「温泉療法」そして「食事療法」の各プログラムを構築し、長期滞在型の健康休養地としての地位を確立し、地域再生を図ろうとするものである。こうした取り組みから発生する交流人口の増大は、関連産業のすそ野を広げ、地域雇用の拡大が期待できることから、持続可能な地域づくりの基礎を支える上で、極めて重要な意味をもつものとして、地域をあげて取り組んでいる。

長野県の最北部に位置する飯山市は、昭和29年の市町村合併以来50年間、過疎化の進行が止まらず、人口はこの50年間で3分の2までに減少した。その最大の原因は、豪雪による生活環境の厳しさと、4か月もの間、雪に埋もれるという条件不利が原因の、地域産業の脆弱さから、若者を中心とした多くの市民が、都市部や積雪の少ない地域に流出したことに起因している。そうした状況下に置いても、バブル期やあるいはそれ以後の長野オリンピック開催までの間は、気象条件を活かしたスキー観光産業や、公共事業を中心とした建設産業によって、ある程度地域産業の水準を維持し、雇用の確保も成されてきた。しかし、ここ数年の国や地方の公共事業の減少や、ピーク時の半数以下というスキー人口の極端な落ち込みによるスキー観光の低迷により、地域経済は深刻な状況に陥っている。また基幹産業の少ない過疎地域ながら、辛うじて産業基盤の根幹を支えてきた農業にあっても、ここ数年の農業市場の国際化による価格低迷により、農産物出荷額も半減し、地域経済は危機的状況に直面している。

そうした中であっても飯山市は、地域特性である美しい自然や農村風景に、さらに磨きをかけるべく、これまでいくつかの実践的取り組みを重ねてきた。その一つには『全市公園化構想』と称して、「美しいまちづくり」に10数年に渡って取り組んできたところであるが、その甲斐あって平成14年度には、「美しいまち並み大賞」並びに「全国花のまちづくり大賞」を同時受賞することとなった。そうした受賞につながることとなったのは10kmに及ぶフラワーロード、5kmに渡る桜堤など、市民手作りの活動があったからこそであり、訪れる「旅行者」に

癒しの「旅」を提供しようという市民意識は非常に高いものになっている。またもう一つには、農村風景を活かしながらの、およそ10年前からのグリーンツーリズムの取り組みが、先進地として評価されるレベルにまで充実し、冬のスキー観光の落ち込みを、辛うじて吸収している状況である。

全市公園化構想で美しいまちづくりに取り組み、その上に立ってグリーンツーリズム事業の進展に力を注いでいる状況下ではあるが、近年では多くの農村地域との競合が顕著となってきたため、さらに個性を磨き、本物の価値を創出する必要があることから『健康増進型の観光』による地域再生へと駒を進めているところである。

健康増進の3要素である「森林」「温泉」「食農」のうち、「森林での運動療法」への取り組みは、農林水産省と厚生労働省が呼びかける「森林セラピー基地」としての実証試験をすでに実施し、この4月、基地として認定されたところである。しかし、地域産業として自立するには専門家による技術支援が不足している。残る「温泉療法」「食事療法」についても、温泉場や民宿・ペンションなどの施設は整っているものの、森林と同様に、専門家の技術指導や講習によってその機能を確保することが求められている。また、そうした癒しの「旅」に訪れる「旅行者」への、土産品などの開発や、農産加工開発など、波及産業の推進役として新規起業を支援することもまた同時に進める必要がある。

また、飯山市のような地方小都市では、雇用形態が限定されたり、Uターン者等への求人情報の提供が不十分であったりと、求職者の求人のマッチングが難しい現状である。積極的な情報提供や相談会により、新規分野であることの不安を解消し、ヘルスツーリズム事業の意義などを周知することで、地域内での潜在的求職者の発掘と、健康増進型観光への従事というマッチングを一層促進していく必要がある。

すなわち、目標とすべき地域ビジョンに到達するに、今後必要となる施策は、以下のとおりである。

森林での運動療法、温泉療法、食事療法を指導する専門指導員の招致（健康プログラムの実践習得）

上記に関連する付帯事業としての新商品開発、農産加工、農家レストランなど、本件の産業体系における、裾野事業を開拓するためのセミナーや技術指導

（ は何れも、観光客向け雇用拡大を目的とした「人材育成＋新規事業コンサルティング」である）

求職者と雇用先とのマッチング事業（求職相談会、求人情報の提供）

3) 独自事業とパッケージ事業の区別についての説明

地域再生のための独自事業	左と連携するパッケージ事業	独自事業への貢献度
<p>グリーンツーリズム推進のための情報発信事業</p> <p>修学旅行など教育研修の場としてのセカンドスクール（グリーンツーリズム）</p> <p>健康増進型の観光による地域振興</p>	<p>専門的、中核的人材の誘致事業（森林療法、温泉療法、食事療法の各療法を指導する専門指導員の招致事業。各療法における地元雇用者への技術指導）</p>	<p>健康増進型観光の提案が、既存のグリーンツーリズム事業をより一層充実した形で提供でき、既存観光分野の雇用拡大が期待できる。</p>
<p>商工会議所等が実施する起業希望者への創業ノウハウ提供ならびに情報提供</p> <p>飯山市による新規事業支援（先導的旅産業創出支援事業）</p>	<p>創業者養成支援事業（各療法に関するセミナーの開催、研修会等、参加負担金の補助）</p>	<p>健康増進型観光に関連する起業意欲旺盛な事業者や商品企画成熟者への個別コンサルティングや市場調査など具体的な支援により、関連する裾野事業の先導的事例を現出できる。さらには、裾野事業の増大により、安定的な雇用拡大が可能。</p>
<p>求人情報の提供</p>	<p>情報提供・相談会開催事業（新しい分野であることによる不安を解消する情報提供事業ならびに、ヘルスツーリズム事業の意義などを理解していただきながら先導的マッチング事業）</p>	<p>地方小都市のしかも過疎地域では、現状において、雇用先が限定され、然るにI、J、Uターン者への情報提供が不十分で雇用のマッチングが難しかった。これらの問題点が解消できる。</p>

4) 定量的指標（雇用創出の目標）

	1年目		2年目（累計）		3年目（累計）	
「森林療法」「温泉療法」「食事療法」の各サービス分野における新規雇用	森林ガイド関係	3名	森林ガイド関係	6名	森林ガイド関係	9名
	(森林)運動療法	4名	(森林)運動療法	9名	(森林)運動療法	16名
	温泉療法	4名	温泉療法	7名	温泉療法	9名
	食事療法	8名	食事療法	18名	食事療法	32名
(上記に関連する付帯事業として、新商品開発、農産加工、農家レストラン開設など、裾野事業が確立することで、安定的な雇用拡大が可能)	合計	19名	合計	40名	合計	66名
合計	19名		40名		66名	

注) ・新サービス分野の構築と、新規創業・新規商品開発などで、雇用が生まれることから、上記数量を想定しているが、観光産業のすそ野は広く関連する周辺産業への雇用拡大は、さらに伸びるものと予想される。

5 目標を達成するために行う事業

5 - 1 全体の概要

地域提案型雇用創造促進事業（以下「パッケージ事業」という）を活用して目標達成を図ることとしているが、このパッケージ事業を、本市の地域再生の各部門に細分化して示すと、すでに記述しているとおり、次の3部門の事業に分類できる。

専門的、中核的人材の誘致事業

（森林での運動療法、温泉療法、食事療法の各療法を指導する専門指導員の招致事業）

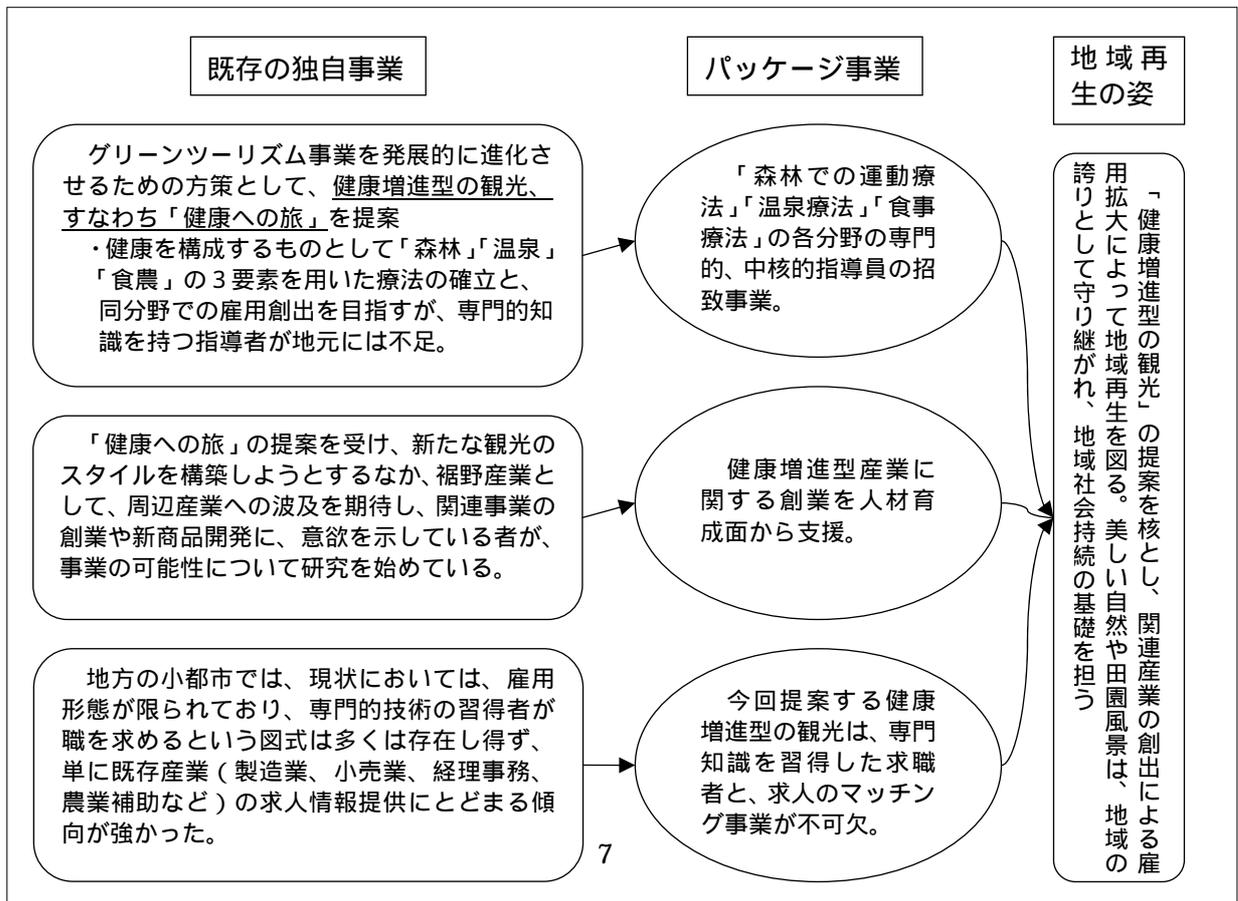
創業者養成支援事業

（運動療法、温泉療法及び食事療法の各セミナーを開催する。また、同様な知識、技術を習得するため、研修会等に参加する際、支援を行う）

情報提供・相談会開催事業

（求職相談会、求人情報の提供）

これら3部門事業が、すでに飯山市として取り組んでいる既存の独自事業を大きく推進させ、地域再生への加速度を飛躍的に高めてくれることとなる。その相互関係は次の略図のとおり。



5 - 2 その他の事業

地域提案型雇用創造促進事業（パッケージ事業：厚生労働省）の具体的な取り組み

事業実施主体

飯山市雇用創造促進協議会

事業の具体的な内容

専門的、中核的人材の誘致事業

- ・「森林における運動療法」事業の専門指導員の配置、ならびに指導員による人材育成・雇用拡大
- ・「温泉療法」事業の専門指導員の配置、ならびに指導員による人材育成・雇用拡大
- ・「食事療法」事業の専門指導員の配置、ならびに指導員による人材育成・雇用拡大

創業者養成支援事業

- ・各療法セミナーの開催事業（運動療法、温泉療法、食事療法）
- ・技術習得支援事業（研修会等参加負担金の補助）

情報提供・相談会開催事業

- ・求職相談会、求人情報の提供

実施スケジュール

- 平成18年度
- 1) 専門的、中核的人材の誘致事業
 - 2) 創業者養成支援事業
 - 3) 情報提供・相談会開催事業

平成19年度 1) 専門的、中核的人材の誘致事業
2) 創業者養成支援事業
3) 情報提供・相談会開催事業

平成20年度 1) 専門的、中核的人材の誘致事業
2) 創業者養成支援事業
3) 情報提供・相談会開催事業

その他

・支援措置番号

地域提案型雇用創造促進事業(パッケージ事業) 厚生労働省

支援措置番号 C0901

6 地域再生計画の計画期間

認定の日から平成21年3月末まで (平成18年度～平成20年度)

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

森林での運動療法、温泉療法、食事療法の各療法が観光事業として確立されていること。

各療法のサービスに従事する人材の雇用が、各年度ごとの目標人数に達していること。

毎年度、利用事業所、利用者へのアンケートにより、実績を把握すること。

療法を提供し、市内各所への普及先導的機能を持った核施設(組織)が存在していること。

3年後の関係する新規就業者数が、目標の66人に達していること。

地域再生の取り組みが、住民の意識レベルの変化に寄与できたか、アンケート調査を実施。

関連する裾野産業とも言うべき周辺産業の市民税額の伸び率調査の実施。

8 その他地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

飯山市では現在、北陸新幹線軌道敷と駅舎（新幹線飯山駅）の建設が、急ピッチで進められている。政府合意された開業期日は平成26年度中とされ、10年を切って開業が迫ってきている。新幹線飯山駅は、長野県の北の玄関口に位置し、およそ500万人から700万人と言われる観光入り込みの、鉄道の玄関口として位置づけられているが、長野県の県庁所在地30万都市にある長野駅と、20万都市に拡大した新潟県上越市の上越駅に挟まれ、新幹線駅としての集客性の低下が懸念される。

それらを解消し、駅としてのポテンシャルを上げるには、「自然景観」という地域資源を、「健康や心の癒し」といった共通理念で磨き、訪れる方々に安らぎを与えうる「個性的な地域」へと、価値を高めて行くことが極めて重要である。新幹線開業後の地域経済の「姿」を左右する、地域再生の中心戦略として、市をあげて取り組む施策でもある。